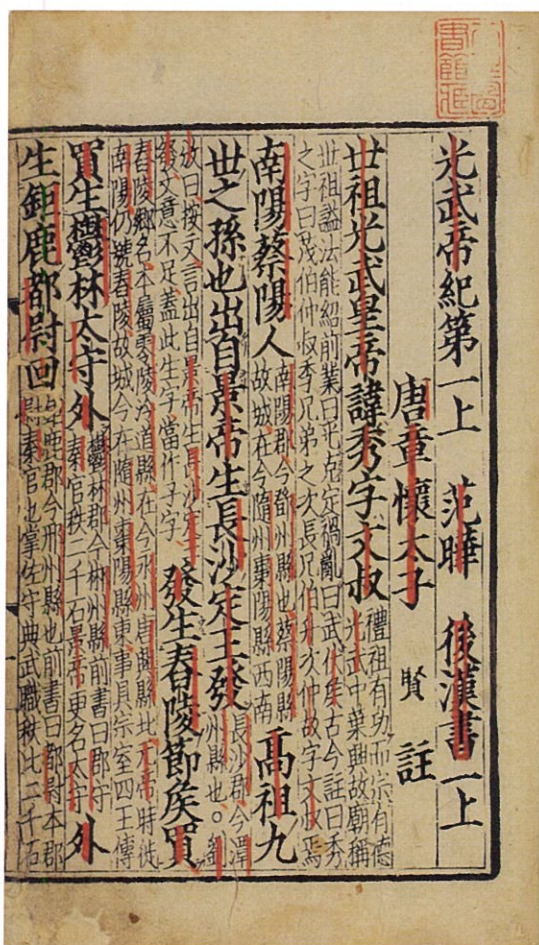


# やまとの名品 天理図書館



こ かん じょ  
後漢書 (重要文化財)

慶元4年(1198)刊

120卷(存85卷)

縦25.5cm 横16.0cm

「後漢書」は後漢王朝（二五〇～二二〇）一代の事跡を記した歴史書で、皇帝や臣下などの伝記を中心に記述した紀伝体という形式で書かれている。本書は後漢が滅びて二百年の後、南北朝時代劉宋の范曄（三九八～四四五）によって、本紀（皇帝の伝記）と列伝（臣下の伝記や諸外国の記事）が著され、下って六世紀に梁の劉昭が志（後漢社会の事柄）を補ったものである。先に成った『史記』『漢書』と共に「三史」と呼ばれ、中国の歴史書の中でも特に重要視された一書である。日本へは吉備真備等遣唐使により奈良時代には既に伝来し、朝廷の大学寮

（官僚養成機関）に始まり、幕末の藩校に至るまで歴史の必須教養となった。

掲出本は南宋の慶元四年（一九八）に福建路建安県の黄善夫と劉元起が出版した「三史」の内の一つ。当時、大部な書物の刊行は従来公費で行われてきたが、その刊行を民間人が行った功績は大きい。校訂が行き届き、内容の確かな善本として、我が国にもたらされるや五山の文学僧等に重用された。全百二十卷中八十五卷を存し、その内の補志二十八卷は室町末期の補写で、完本ではないが、慶元刊本「三史」の現存は極めて稀で、



江戸末期の考証学者狩谷棧斎蔵の本館本と米沢藩上杉家伝来本（国宝）の他に数点しかない。まさに宋代刊本の逸品である。

また本館本には後人による訓点の他に、官職・地名・人名には左・右・中央に一本線、書名には中央に二本線と、一定の規則に則って朱引きが施されている。これは古来、読書が一代限りのものではなく、代々読み継がれることを前提にしたものであったことの証でもある。

（天理図書館 吉成伸仁）

天理図書館のお知らせ Tel: 0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

○7月の休館日: 31日

（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）